

①メンタルタフネス講座の正規科目化への取り組み
平成22年度「大学生の就業力育成支援事業」において開発・実施してきた「メンタルタフネス講座」は、学生の「メンタル面の育成」を通して、就職後の早期離職などを防止するための講座であった。今回の取組では、これまでの実施経験や学生からの要望等を反映させた「実践講座」を追加し、総合的な「就業力」の育成を図るとともに、「新メンタルタフネス講座」としてキャリア科目群の実習科目として正規科目化する。

②自己理解促進のための採用面接官の疑似体験(バーチャル人事体験)
アクティブラーニングによる学生の主体性・創造性を育成し、自己理解を深める活動として、学生が採用面接官を疑似体験する(バーチャル人事体験)を行う。特に通常経験することのない「面接官」の役割をオプザーバーとして体験することによって、企業人事の視点からどのような学生が求められ何が評価の対象となるかについて、企業側のニーズや自己の職業観を理解することが可能となる。

③地域企業・組織と連携したプロジェクト体験
実社会におけるプロジェクトベースでの仕事の増加状況を鑑みプロ

ジェクトの体験を通して産業界ニーズとのギャップを埋める「プロジェクト演習」科目を展開する。学生はゼロから企画を立ち上げ、各々の用意されていない課題に取り組みることによって、自主性や創造性、さらにはリーダーシップや他者との協働がいかになるものであるかを実地体験を通して学ぶ。

④学生、連携大学、地元企業を含めた3者間の協働によるインターンシップ実施(学部)とアクティブラーニングの手法を使った教育経験の共有(短大)
学部では、学生自らが行動を起こすアクティブラーニングをコンセプトとして、それを達成するための5つの要素(グループワーク、ディベート、フィールドワーク、プレゼンテーション、振り返り)を包括的に含むインターンシップ活動を連携大学間にも拡大し、学生、連携大学、地元企業の3者間の相乗効果によって更なる成果を狙う。また短大ではあらゆる局面でアクティブラーニングの手法としての5つの要素を含むような活動を展開し、高度化を図るとともに、各大学の教員・学生代表によるプレゼンテーションを通じ、教育力のレベルアップを図ってゆく。

プロジェクト活動報告 ～プロジェクト活動を通じた社会人基礎力の育成～

専属嘱託講師 村松 東

社会人として働くためには、業界業界を問わず共通に必要なとされる基本的な能力がある。

豊橋創造大学情報ビジネス学部・経営学部、豊橋創造大学短期大学部キャリアプランニング科では、地域企業・組織と連携したプロジェクト活動を通して、健全な職業観と職業観を持ち組織の中で協働して活動できる人材の育成に不可欠な社会人基礎力(ジェネラルスキル)の養成に取り組んでいる。

社会人基礎力とは、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」(経済産業省)と定義され、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力と、その能力を構成する12の能力要素の養成が必要とされる。

社会人基礎力の12の能力要素をバランスよく身に付けることで、成果の

ある仕事、周囲とのコミュニケーション、仕事とプライベートの両立ができて、その結果として学生にとって社会で自立するための自信につながる。

本事業で実施するプロジェクト活動では、学生が企業をはじめとする外部組織とプロジェクトチームを組んで、独自性と有期性のあるプロジェクトに取り組んでいる。企画・運営・進捗管理・報告といった4段階のプロセスを踏まえた実践を通して、社会人として主に必要とされる主体性、計画力、状況把握力、発信力をはじめとする能力要素を養成する。

今後においても、本学では、特色のある実践的なプロジェクト活動を通して社会人基礎力を養成し、学生の総合的な就業力の育成を図ることを目的として本事業を実施する。

最後に、この事業にご理解・ご協力いただいた地元団体企業各位をはじめ、関係各位に御礼を申し上げます。

図表: 3つの能力/12の能力要素

3つの能力	12の能力要素	内 容
前に踏み出す力 (アクション)	主体性	物事に進んで取り組む力
	働きかけ力	他人に働きかけ巻き込む力
	実行力	目的を設定し確実に行動する力
考え抜く力 (シンキング)	課題発見力	現状を分析し目的や課題を明らかにする力
	計画力	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力
	創造力	新しい価値を生み出す力
	発信力	自分の意見をわかりやすく伝える力
チームで働く力 (チームワーク)	傾聴力	相手の意見を丁寧に聴く力
	柔軟性	意見の違いや立場の違いを理解する力
	状況把握力	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力
	規律性	社会のルールや人の約束を守る力
	ストレスコントロール力	ストレスの発生源に対応する力

出典: 経済産業省「社会人基礎力」とは

SOZO 豊橋創造大学

●情報ビジネス学部 キャリアデザイン学科 ●経営学部 経営学科 ●短期大学部 キャリアプランニング科
〒440-8511 愛知県豊橋市牛久保町下20-1 渉外部キャリアセンター
TEL.050-2017-2104(直通) FAX.050-2017-2112(直通) インターネット [URL] http://www.soza.ac.jp/ [E-mail] job@soza.ac.jp

平成24年度 文部科学省 大学教育改革推進事業
産業界のニーズに対応した教育改革・充実体制整備事業

平成24年度 文部科学省 大学教育改革推進事業
産業界のニーズに対応した教育改革・充実体制整備事業

プロジェクト活動報告



地域産業界連携 教育力改革プロジェクト

事業推進責任者 佐藤勝尚

「産業界のニーズに対応した教育改革・充実体制整備事業」は、三重大を代表校とした中部圏23大学によるアクティブラーニングを通じた教育力および地域・産業界との連携力を通して、教育改革力を強化する取組である。本学情報ビジネス学部/経営学部ならびに短期大学部キャリアプランニング科は、その中で東海Aチームに属して幹事校と副幹事校からなる中部圏23大学教育推進委員会の調整のもと、連携FDを通して教育改革の実践過程で生み出された成功と失敗を共有しつつ教育力を高め、中部圏産学連携会議を通して大学が育ちようとする資質と地域・産業界のニーズに関する対話を行うものである。また、その地域・産業界のニーズに対応した能力を育成するため、学生参加型授業、共同学習、課題解決学習やPBLなどを教育現場に取り入れ、就業力に関わる学生の能動性を高める改革を進めるとともに、社会現場での実践教育としてのインターンシップを高度化するものである。

現在、大学における人材育成と産業界のニーズとのギャップについて最も指摘される点の1つは「学生の主体性・創造性の欠如」である。これは、企業人として求められる仕事は出来ず、仕事上の問題点を自ら発見し、目的を設定し、仮説を立て、創造的に解決していくという社会人として必要な姿勢が欠如している状態である。この問題は学生の能力が欠如しているのではなく、彼らがこれまでの人生経験において目的を持って主体性と創造性を発揮する機会が十分に備わっていなかったことであると考えられる。大学全入時代において各大学の学生サポートが非常に手厚くなる中、学生が「自らの力」で主体的に活動する機会や、創造的に物事を解決する経験が減少していることが原因として推測される。この問題に対応するため、本学では「大学生の就業力育成支援事業」として、これまで情報ビジネス学部・経営学部と同短期大学部キャリアプランニング科が共同で取り組んできた「持続型職業人SOZOプロジェクト事業」を発展させ、右記①～④を柱とした事業展開を進め、学生の総合的な「就業力」の育成を図るのである。



今回のプロジェクト活動報告書では、平成24年度に実施した「地域企業・組織と連携したプロジェクト体験」(下記③)の学部・短大それぞれのプロジェクト活動の内容について報告する。
最後に、この事業にご理解・ご協力いただいた地元団体企業各位をはじめ、関係各位に御礼を申し上げます。

豊橋創造大学・豊橋創造大学短期大学部

地域産業界連携教育力改革プロジェクト

①メンタルタフネス講座の正規科目化への取り組み
②自己理解促進のための採用面接官の疑似体験(バーチャル人事体験)
③地域企業・組織と連携したプロジェクト体験
④学生、連携大学、地元企業を含めた3者間の協働によるインターンシップ実施(学部)とアクティブラーニングの手法を使った教育経験の共有(短大)
※各事業の内容は最ページにてご案内しています。

プロジェクト活動

1 食の伝達「大学生コックさんのクッキング教室(子どもクッキング)」プロジェクト

担当教員: 朝倉 由美子 協力: 豊橋市福祉部こども未来館 ココニコ

現代では食事は家庭で作らなくても用意できるほど食の外部化が進んでいる。その簡便さに押され、家の味・母の味は無くなりつつあるのではないかと懸念する。そこで、調理を学ぶ学生たちは、少しでも早くから家庭で食事に携わってほしいと、小学生向けに料理教室を計画し、本年度はビザやギョウザなど子どもたちのランチメニュー盛り込みに3回実施した。子どもには料理をすることの大切さを伝え、そして自分で作った料理のおいしさを伝え、一方学生は料理教室開催に関わる過程の問題解決や自らの技術の確証とコミュニケーションの必要性を学んだ。何度も参加してくれて顔見知りになった子どももあり、学生の緊張ははじきにほぐれた。料理教室の開催は大変だが、楽しくてよい経験になったと述べ、学生自身の成長にも有効であった。今後もこの活動を通して多くのことを学んでもらいたい。

5 身近な自然発見・発信プロジェクト2012

担当教員: 寺本 和子 協力: NPO法人 東三河自然観察会 愛知県三河港務所

愛知県の東三河地方は、多様性に富んだ地形を有し、その結果、東三河の自然もまた多様である。しかし、これら多様な生物の現状は決して楽観できない。プロジェクト参加者は、NPO法人東三河自然観察会の指導を受け、実際野外(蒲郡市竹島、豊川市東三河ふるさと公園、豊橋市華毛湿原)へ出て自然を肌で感じ、自然に感動する感性を養いながら、東三河の自然の現状を知ることにも努めた。

また、三河湾に浮かぶ竹島の自然観察を通して興味を持った「三河湾汚染の現状と対策」について、愛知県三河港務所の協力を得ながら深く学んだ。

以上の活動を通して、社会人との交流マナーを学ぶことにも努めた。

2 豊橋の朝市を考えるプロジェクト

担当教員: 今泉 仁志 協力: 豊橋観光コンベンション協会

豊橋市では、現在でも毎日、市内の5か所のどこかで「朝市」が開かれている。大正時代から続いており、すっきり市民に定着した存在とも言えるが、出店側・購入側双方の高齢化が進み衰退していく一方である。「三八の市」(豊橋市前畑町)を例にとれば、最盛期には200を超えた店舗数も、現在では、その十分の一の20店程度の規模である。「朝市」のみならず、個人経営の「八百屋」も廃業が続き、一般消費者は「スーパーマーケット」を使うようになっている。「朝市」の存在自体を知らない学生も多いため、「マルシェ」全般を調査させ、実際に「朝市」に行ってみる経験をさせた。夏の真っ盛りということもあり、炎天下での自営業の大変さを実感できたようだ。朝市の存続を望む意見が大半を占めたが、その消滅は避けられないようだ。

6 長谷川ゼミ活動報告

担当教員: 長谷川 正志 協力: 医療秘書教育全国協議会

我々の活動は、地域産業界との連携を目指したものでなく、学生たちの資格取得という学びの1つに対する実践的チャレンジと、幅広い視野を広げるといふ意味での「韓国医療研修」の二本柱の活動を行った。医療秘書技能検定試験では、二級受験者35名に対して合格者35名という全員合格を勝ち取った。又、最難関の準1級では35名の受験者に対して29名の合格者で合格率は82.9%であったが、全国平均合格率(37.1%)に比べると極めて高い合格率であった。又、成績優秀者として全国表彰者も2級2名、準1級2名を輩出した。韓国医療研修は8月29日～31日の2泊3日で実施し、韓国ソウル市の漢陽大学を訪問し、医学部付属病院、国際病院を見学した。又、異文化交流ということで、観光グルメショッピング等も満喫した。以上の活動を通じて学生の学びに対する向上心と、連帯感・コミュニケーション能力の開発に寄ることが出来た。

3 発酵食品のおいしさ発見プロジェクト

担当教員: 木下 賀津子 協力: (株)小田商店(株)ビヨック

数年前から、麹を使った発酵食品が話題になっている。本プロジェクトは、①日本の伝統食品である麹を使った味噌や醤油などの発酵食品についての製法を調査し、それらを使った調理法を研究すること。②学園祭でパネルや料理の展示をして発酵食品についての情報を一般に公開することを目的とした。また、調理実習の集大成として、学園祭でレストランを企画し運営した。主な活動内容は、手作り味噌体験や味噌の醸造(市内の小田商店)を訪ね、味噌蔵内を見学。一方、レストランでは、自分達が作った味噌を使い豚汁や野菜たっぷりのスープ類、手作りの「チリコンカン」などの料理をお客様に販売するという体験を通して、社会性を養う力を身に付けることができた。本プロジェクトは、学生達の自己実現の場としても有意義な活動になったと考えている。

7 豊橋うどんプロジェクト

担当教員: 花岡 幹明 協力: (株)東京屋

本プロジェクトのテーマは、豊橋産物産物組合青年会との協働による豊橋地域におけるうどん・そばに関する総合的実施と「豊橋うどん」の普及に関する貢献活動を行うことである。

本年度は、全国的な市場調査に向けての準備段階として、調査手法を学習し、豊橋のうどん市場の現状把握を目的としたアンケート調査を行った。また、豊橋うどんのルーツについて、関係者にインタビュー調査を実施した。更に、これらの活動成果や情報を発信するためのHPやブログを作成した。学生メンバーは、短大部と学部の有志学生からなる混成チームであったため、活動時間のズレなどもあったが、意図的に作業を進めてくれた。今後、アンケートやインタビュー調査の結果報告、また、更なる調査や情報発信について活動を継続する予定である。

4 防犯プロジェクト

担当教員: 千賀 博巳 中島 剛 細谷 邦夫 協力: 愛知県豊橋警察署

働く意欲と意識の向上を目指して、「人と人とのつながり、絆を大切に、社会に貢献する学生生活を送るために、自分たちに何が出来るか」を考え、先輩たちが発足したボランティアチームCTS(Clean Team SOZO)の活動を継承した。活動は、月に一度の地域巡回と豊橋警察署と連携した駅前キャンペーン活動が主であったが、学内の自転車の施設点検や、少年立ち直り支援行事などにも参加した。地域巡回やキャンペーン活動では、最初戸惑っていた学生が、大きな声で声掛けする姿が見られた。活動の中で、行事に参加した他のボランティア団体の方との交流も積極的に行われた。また、CTSの防犯活動に対し、愛知県地域安全研究会及び豊橋警察署から感謝状をいただき、学生たちも自分たちの活動に自信を持つことができた。

8 We ♥ ROSE プロジェクト

担当教員: 村松 史子 協力: Watanabe Rose Nursery ガーデンガーデン(株)

地域の産業の実態を知り、地域のために何が出来るかを考える場として本年度も田原市の花農家(ワラ園)と連携して実践した。

学生の発想を促して、プロジェクト名を「からWe」と改称し、「絆を大切にしよう」をテーマとした。目標を具体化するために「育てる作る売る」の3部門に分かれて取り組んだ。7月30日、ワラ園を見学し、生産者の栽培に関する苦労や喜びを身近に見聞きすることができた。学園祭には、産地直送の新鮮なバラと前評判の高い「青いバラ」の販売を行い売上げた。実践を通して、自分の得意とする面をグループ内で活かすことの喜びと、互いに認め合い協力することの大切さを感じていったことが何よりの成果と考える。

